

実践『ペルソナ』通信 (No. 108)

「QRコード決済」に関する調査 Side-*Be*

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大学生の「QRコード決済」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

※実践『ペルソナ』通信 Side-*Be*とは、写真観察を行い、実態を考察した調査レポートです。

総括

今回の調査結果から、QRコード決済では主に「PayPay」「au PAY」「楽天ペイ」3つのサービスが利用され、その中でも「PayPay」を利用する人が最も多いということがわかりました。QRコード決済時のスマートフォンは、相手側に向け、両手で持ちながら差し出す人が多かったです。また、バーコードを大きく表示できる機能は使用せず、画面の明るさは、QRコードが読み取れる程度に明るくしている人が多くみられました。財布利用者に関しては、服の系統と財布のデザインが似ていました。写真は、セキュリティ保護のため、QRコードやバーコードの部分を付箋で隠し、撮影を行っています。

調査結果のポイント

(1) QRコード決済利用者では主に3つのサービスが利用されていた

QRコード決済は、「PayPay」「au PAY」「楽天ペイ」の3種類が利用されていました。ほとんどの人が1つのQRコード決済サービスを利用していますが、中には複数のQRコード決済サービスを利用している人もいることがわかりました。

(2) PayPayユーザーが最も多い

QRコード決済サービスの利用は、「PayPay」が最も多く、次いで「楽天ペイ」、「au PAY」という結果になりました。女子大生で最も利用者数の多いQRコード決済サービスは「PayPay」だと考えられます。

(3) QRコード決済時のスマートフォンは、相手側に向け、両手で持ちながら差し出す人が多い

写真は、実際に店舗などで利用する際の様子を再現してもらいました。その結果、スマートフォンを相手側に向け、両手で持ちながら差し出す人が多くみられました。QRコードを読み取る相手が読み取りやすいようにしていると考えられます。

(4) QRコードを表示する際に拡大表示をする人は少ない

「PayPay」や「au PAY」にはQRコードを大きく表示できる機能がありますが、その機能を利用している人は少なかったです。アプリを開いた際に表示されるそのままの画面で支払いを済ませる人が多いことがわかりました。

(5) スマートフォンの画面の明るさは暗すぎない

QRコード決済を提示する際に、スマートフォンの画面の明るさは暗すぎず、読み取れるくらいの明るさにしている人が多いことがわかりました。

(6) 服の系統と財布のデザインが似ている

財布のデザインが服の系統と似ている人が多くみられました。財布もファッションの一つとして選んでいると考えられます。財布の形態は、折りたたみ式を利用している人が多く持ち運びのしやすさも財布選びの基準になると考えられます。デザインは、リボンなどのガーリーなデザインやシンプルなデザインがみられました。

調査概要

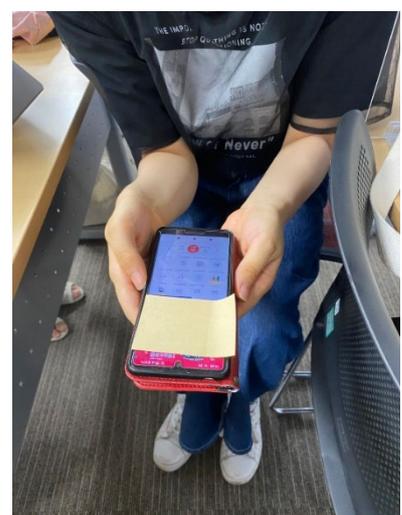
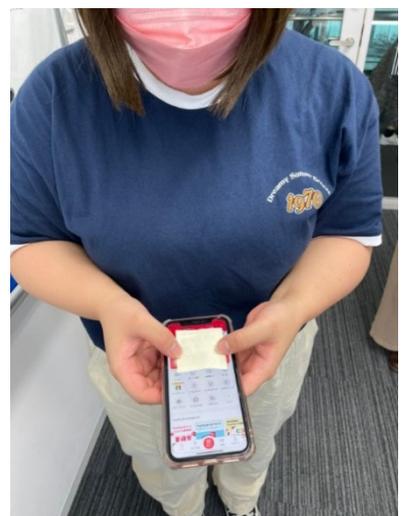
- 調査対象：実践女子大生（全学年、全学部）
- 調査方法：フィールドワークによる写真撮影および対象者観察
- 調査期間：2022年7月
- 調査場所：実践女子大学

調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 齊藤佳乃・田中千秋・八巻陽菜・細田朝未

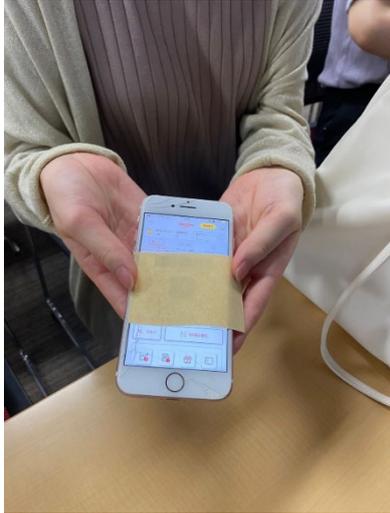
写真

【PayPay】

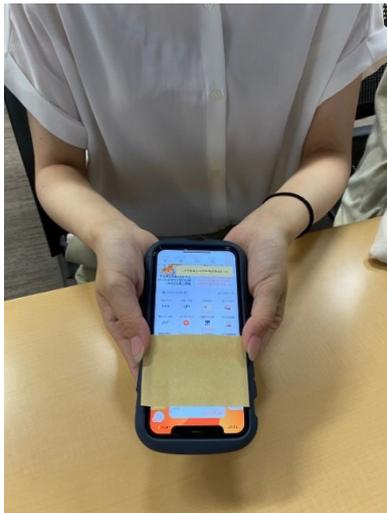
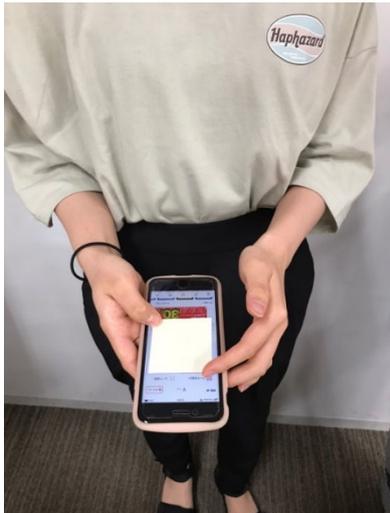




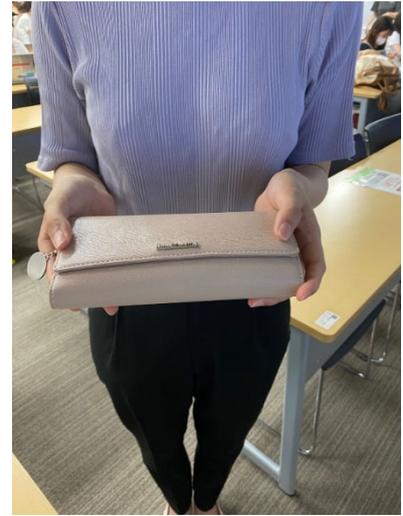
【楽天ペイ】



【au PAY】



【財布】



調査後記

今回の調査を通じて、女子大生が利用しているQRコード決済の中で最も利用の多いサービスは「PayPay」であり、次いで「楽天ペイ」、「au PAY」が利用されていることがわかりました。これらのQRコード決済サービスは利用できる場面が幅広いことから利便性が高く、ユーザーが多いのではないかと考えられます。実際に店舗などで利用する際の様子を再現してもらったところ、多くの方がスマートフォンを両手で持ち、相手側に差し出すように見せてQRコードを読み取らせていることがわかりました。さらに、再現されたQRコードの読み取りシーンにおいて、「PayPay」と「au PAY」は拡大表示機能もあるものの、アプリトップ画面で表示されているデフォルトの読み取り画面で決済を行っていることがわかります。また、QRコード決済利用時の画面の明るさに注目すると、スマートフォンの設定を変更することなく、ちょうどよい明るさの画面をすぐに提示していました。画面が暗すぎる場合、QRコードの読み取りが難しく決済に時間がかかることがあるため、今回の調査対象者では普段から意識せずともスムーズな決済が実現できているのではないかと考えられます。一方、QRコード決済を利用していない方の財布では、財布本体のデザインと服の系統が似ていたことから、ファッションの一部として身につけている可能性があるといえます。新型コロナウイルスの影響下でも、対面授業で多くの方から直接調査にご協力いただくことができました。今回の調査で学んだことや反省点を生かし、今後の調査・分析に役立てていきます。改めて調査に協力していただいた方々に感謝申し上げます。

